

高齢者の暮らしやすい家、まちをつくろう

< 小学校高学年 >

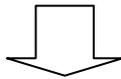
目的 高齢者が生きていく上で、必要なものや大切なことを考える。
利用しやすい施設・設備の理解だけでなく、高齢者の思いや願いを知る。

気づく

高齢者が生きていく上で、どんな問題や困難があるか話し合おう

「高齢者」の意味をおさえるとともに、自分たちの身近にいるおじいさんやおばあさんの様子から考える。
事前に、おじいさんやおばあさんにとって不便なことや、便利なものなどのアンケートをとったり、話を聞いたりしてくる。

高齢者が困っている場面に
出会った経験などを思い浮かべる。
アンケートをとる場合授業の趣旨などを学年便り等で家庭に伝え、協力を得る。

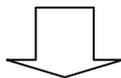


広げる深める 1

高齢者がくらしやすい家や町を作っていくうえで、“必要なもの・大切なこと”を考えよう

5～6人のグループを組み、必要なものをメモカードに書く。
高齢者の立場になって考えさせる施設・設備面ばかりでなく、高齢者への理解や協力する心などにも着目する。

思いつくままに書き込んでいく。
高齢者の立場に立って考える。

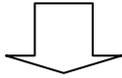


広げる深める 2

お家の人のアイデアも聞こう

家族のアイデアも取り入れる。特に祖父母の意見を聞くことができる子どもについては聞きとりをする。

社会「わたしたちのくらしと日本国憲法」
町の福祉ウォッチング
・役所
・施設

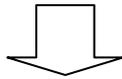


計画し、実践する

作成したメモカードを整理し、まとめよう

どのような意見やアイデアが出たか、グループ全員で確認する。
出された考えや意見の中から、自分たちにできることや実現可能なものに着目する。
グループ全員で協力し絵や文で模造紙にまとめる。

子どもたちが具体的にイメージできるように絵やイラストを描くとよい。



振り返る

自分たちのアイデア（思い）を発表しよう

自分たちのグループのアイデアを協力して発表する。
自分のグループや他のグループのアイデアなどを比較することで、更に考えを深める。
感じたことや考えたことなどを「振り返りカード」にまとめる。

学年集会等で発表するのもよい。
まとめは学年の廊下や教室等に掲示する。



【学習を進めるにあたって】

- ・高齢者介護施設や障害者福祉施設などへ訪問することでさらに新たな気づきや深まりへと結びつけることもできる。
- ・在日外国人、障害者などへも焦点を当てて学習を進めていくことも可能である。